

エネルギー・環境新技術先導プログラム(新規)

プログラムの目的

- 我が国が、2050年に温室効果ガス半減など、エネルギー・環境分野の中長期的な課題を解決していくためには、既存技術の延長では不十分であり、従来の発想によらない革新的な技術の開発や新しいシステムの構築が必要。
- 特に、太陽光パネルや燃料電池等、環境・エネルギー分野の技術・システムは、基礎研究から社会システムへの実装に至るまでに30年以上を要するケースが少なくない。そのため、今のうちから2030年以降に実用化できる新技術を発掘し、将来の国家プロジェクトを次々と生み出す土壌を形成していくことが重要。
- 我が国の技術開発の状況を見ると、企業の研究開発の短期化、国家プロジェクトの小規模化・近視眼的傾向にあり、中長期を見据えた新技術の発掘・育成がないと、将来の国家プロジェクトに繋がる革新的な新技術が枯渇していく恐れがある。
- 本プログラムは、全国の大学・企業等の人材を活用して、飛躍的なエネルギー効率の向上や低炭素社会の実現に資する有望な技術の原石を発掘し、将来の国家プロジェクトに繋げていくことを目的とする。

プログラムの内容

- 【対象分野】**
 - ・省エネ・新エネ・CO2削減の3分野に資する研究領域
- 【予算規模】** 平成26年度政府予算案：20億円(需給)
 - ・1億円以内程度/件/年、委託
 - ・原則1年以内(研究内容により最大2年間程度)
- 【対象者】** 産学連携に取り組む大学・研究機関・企業
- 【技術シーズの発掘スキーム】**
 - ・NEDOにおいて、全国の大学・企業等の人材を「新技術調査委員」として委嘱し、各地方の企業・大学を巡回訪問すること等により、地域密着で技術シーズの発掘を行う。
- 【審査の視点】**
 - ・新規性・独創性・革新性や波及効果といった審査項目を重点的に評価し、2030年以降の実用化を見据えた、革新的な技術・システムを積極的に採択する。

プログラムのイメージ

